

小規模な小学校の児童が年間を通して合同授業に取り組む香美町の「学校間スーパー連携チャレンジプラン」が、2学期に入り本格化している。多人数で学習することにより、子どもた

ちの学力や積極性を伸ばす狙いがある。授業内容は地域に公開しており、保護者や外部の評価も高い。町教委は「全国のモデルになれば」と意気込んでいる。
(綾木めぐみ)

保護者や外部 高評価



足し算をする児童らが指定した数字になるカードを探している。10月31日、香美町小代区の町立小代小

□いきいきと

10月31日には小代、射添の両校で合同授業が行われた。このうち小代小では両校の1年生計17人が三つのグループに分かれ、カードを用いてゲーム感覚で足し算を学んだ。児童一人一人に目が行き届く

く計算できるようになればと、他の2人と話し合って計算カードを取り入れることにした。楽しみながらも真剣に取り組む時間を設け、めりはりが利いた授業になるよう工夫したという。

同プランは本年度からスタート。香住小を除く町立小学校9校をグループ分けし、それぞれ同年同士で計画的に授業を展開。内容はオープンスクールとして地域に公開し、児童一人一人に目が行き届く。たカードの中から1枚でも多

町教委

「全国モデルに」

「連携する学校の数を増やしてほしい」などと、反応はおおむね良好だったという。

□一つの学校のように

く取ろうと、子どもたちは真剣そのものだった。そのほか2人一組で計算式が書かれたカードを出し合う「大きき比べゲーム」も行った。射添小1年の岡本華望さんは「大きき比べが楽しかった」と笑顔で話した。

小代小1年の瓜ヶ平優平君の母、実穂さん(42)は授業を見学して「子どもがいきいきしている。学校が違っても学年が一緒だとすぐに打ち解けることができる」と話した。

□楽しみながら

この日の授業内容は、夜遅くまで何度も協議を重ねて決まった。射添小1年生担任の中村智子教諭は、少しでも速と期待している。